

## 養殖魚におけるゲノム情報を利用した育種の取り組み

荒木 和男

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 増養殖研究所 育種研究センター  
三重大学生物資源学部・発生代謝機能学講座

11月10日(木) 4:00PM - 5:15PM

理学部 E 館 1 階 131 号室

コイや金魚等一部の魚種を除いて水産対象種の養殖の歴史は短く、多くの海産魚の本格的な養殖は20世紀になってから始まった。しかし、人工交配による完全養殖ができる魚種は少なく、ウナギやマグロの様に多くが天然の種苗を捕獲して養殖しているのが現状である。そのため、家畜化が進まず、天然海の魚類には原種のままの多くの遺伝的多様性が残されている。また、魚類では1対1交配で数千尾の個体からなる解析用家系を作出し、表現型を解析できる長所がある。我々は、次世代シーケンサーのゲノム解析情報を利用してヒラメやブリ類を対象に詳細な遺伝子地図の作成を行うと共に、魚類の長所を生かして解析家系を作出し、その表現型解析とジェノタイピングの情報を利用したヒラメのレンサ球菌抵抗性やブリのハダムシ抵抗性の連鎖解析による選抜育種の研究を行ってきた。今回はこれら最新の結果とともに日本の魚類養殖の現状について紹介する。

連絡先： 金森 章 ext. 2537, [kanamori@bio.nagoya-u.ac.jp](mailto:kanamori@bio.nagoya-u.ac.jp)